

- ・QGISへの出力機能・サムネイルを付けて保存機能
- ・Sentinel-2データの新形式(ファイル名が短縮された版)対応。
- ・月や火星等での距離・面積の計算の修正
 - * ファイルのSpheroidが認識されれば正しく動作
- ・一部の処理(標高データ関連)で処理結果が表示されるまでの「しばらくお待ちください」の表示が無いためフリーズしたように見えることの修正

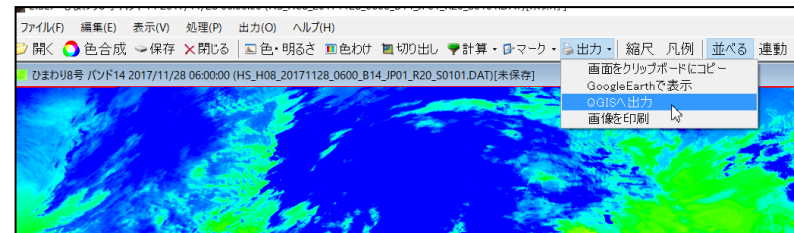
今回のバージョンから、距離を計算するための半径は地球半径を前提とせず、画像データそのものに入っているSpheroid(球面)情報から読むようにした。

このため、今後距離を計算するうえでキモになるのは、開いている画像データの中にSpheroidの値が「一定のルール」で格納されているかにかかっている。

これを確認する手順は以下の通り。

- ・EISEIで画像を開く
- ・「ファイル」メニューから「ファイルのプロパティ」→画像に関する情報が色々表示される
- ・下にスクロールして、だいぶ下の方にある「距離・面積計算の基準となる半径(球を仮定)」の値を見る
- ・この値がおよそ地球のデータなら6,400,000m、月なら1,700,000m、火星なら3,400,000mになっていれば半径が正しく認識されている

新機能 「QGISへ出力」



Quantum GIS)は、地理情報システムの利用を可能とするオープンソースソフトウェアである。「GIS」とは、地理空間情報の活用の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とする、「地理空間情報活用推進基本法」(平成19年法律第63号)では空間上の特定の地点又は区域の位置を示す情報とされている。(geographic information system)

衛星データ分析ソフト「EISEI」での分析データを「QGIS」で活用出来ることは、従来から多くの要望が寄せられていた。

従来からの、「GoogleEarth」への出力とあわせて、「QGIS」への出力が活用されることを期待している。

「ひまわり8」データの活用に一層貢献できるものとする。

QGISの活用にあたっては、国土交通省政策局の「QGIS操作マニュアル」の活用を強くオススメする。「QGIS」のダウンロードから、具体的な操作まで掲載されている。

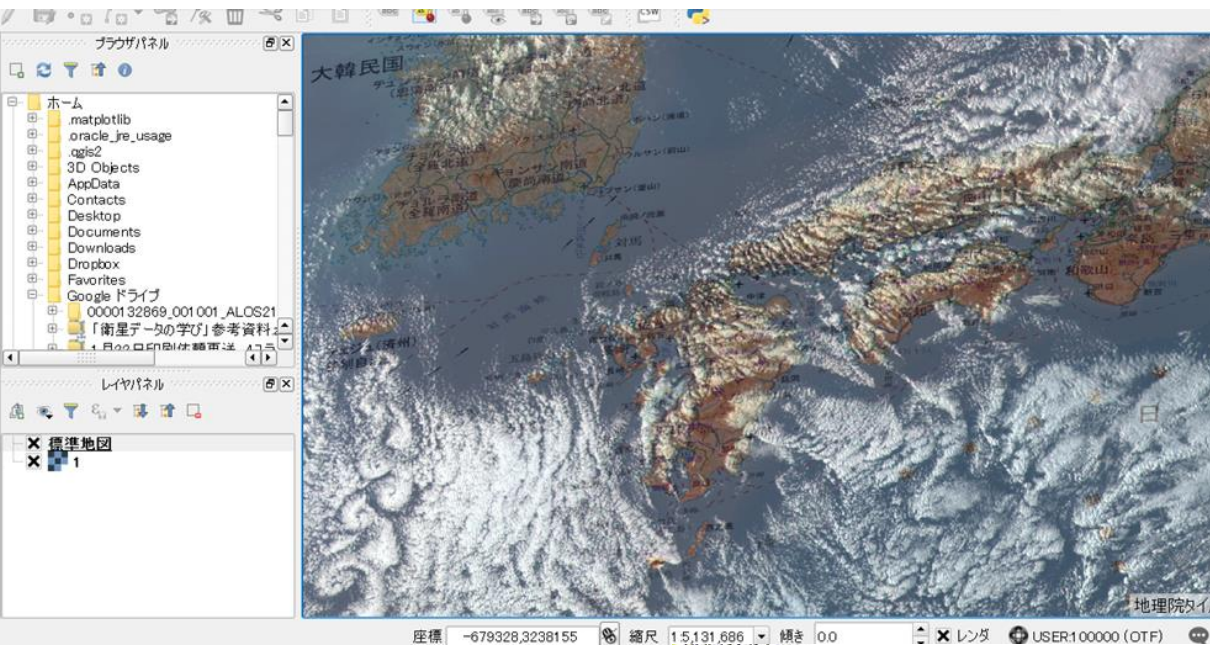
地理院地図の利用も網羅されている。

QGIS 操作マニュアル

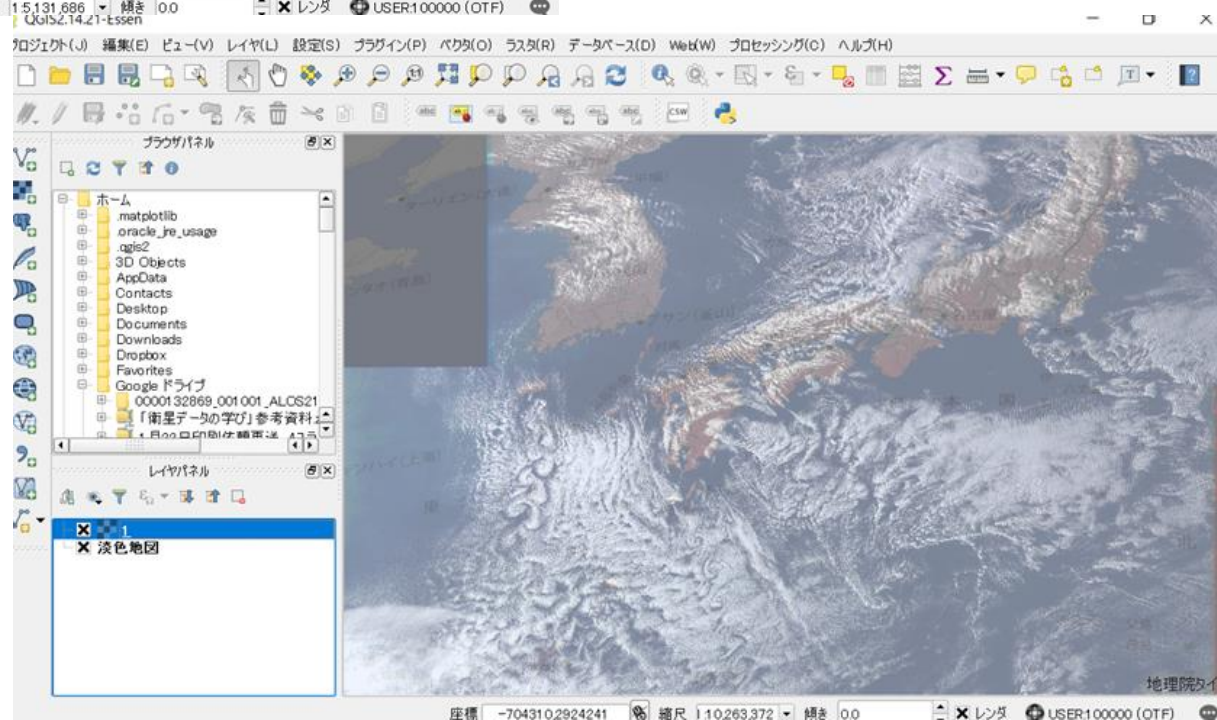
2017年3月

国土交通省国土政策局

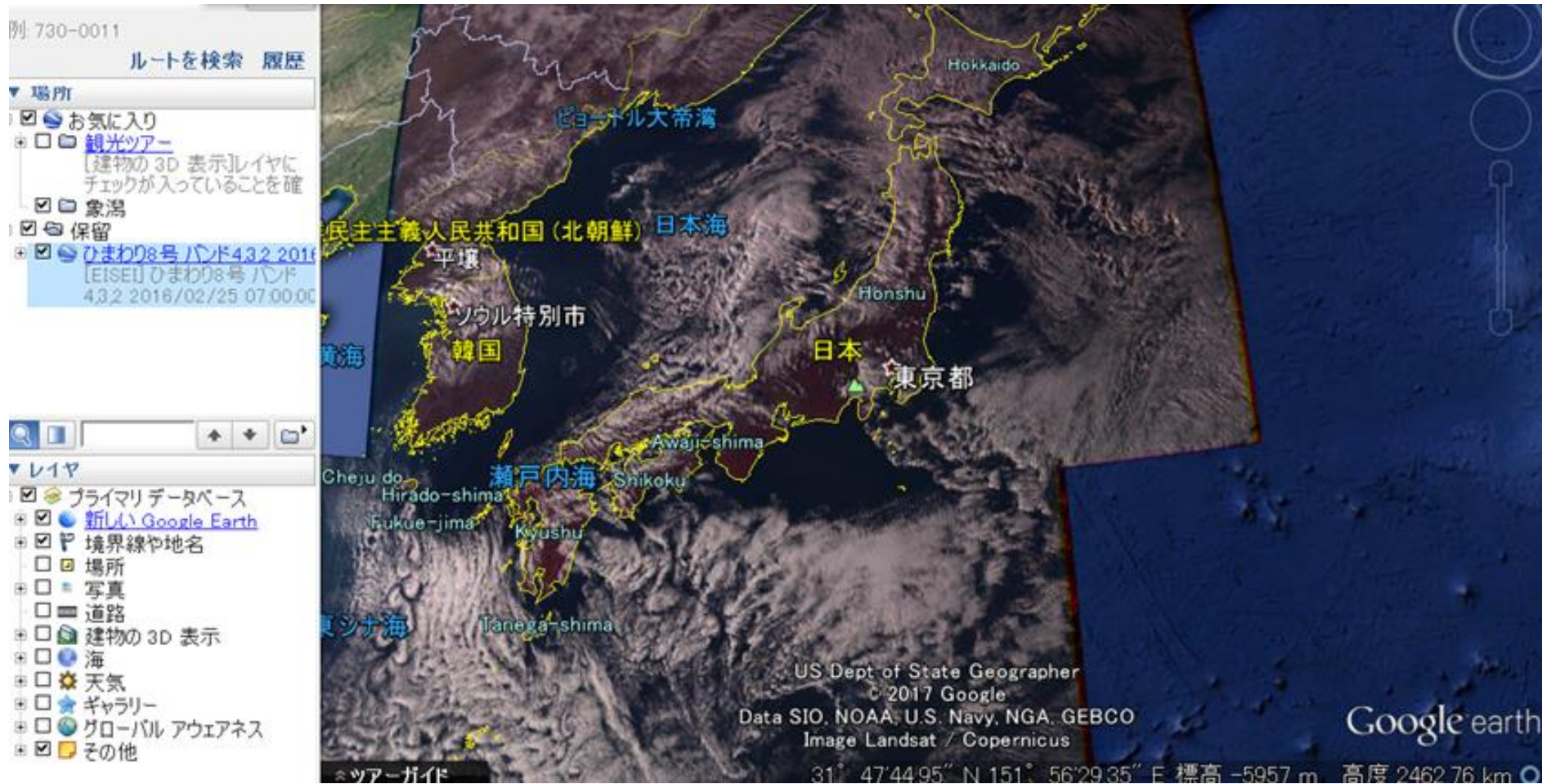
「ひまわり8」データの出力例



透過度を変えている



参考 GoogleEarthへの出力例



* 「QGIS」への出力と比べ、「GoogleEarth」への書出は簡便です。「書出」のそれぞれの持ち味を活かしたい。

新機能 「月や火星等のデータでの距離・面積算出」

出し]画像ファイル (Red) [切り出し]画像ファイル (Green) [切り出し]画像ファイル (Blue) (オリンポス山周辺)

本バージョンから、月や火星データで、「距離や面積が算出できるようになりました。」

きより:1483.701km
北緯10°58'21.55", 西経

面積:942.228km²
南緯9°40'02.17", 西経160°53'22.39"

佐賀関と佐田岬の距離

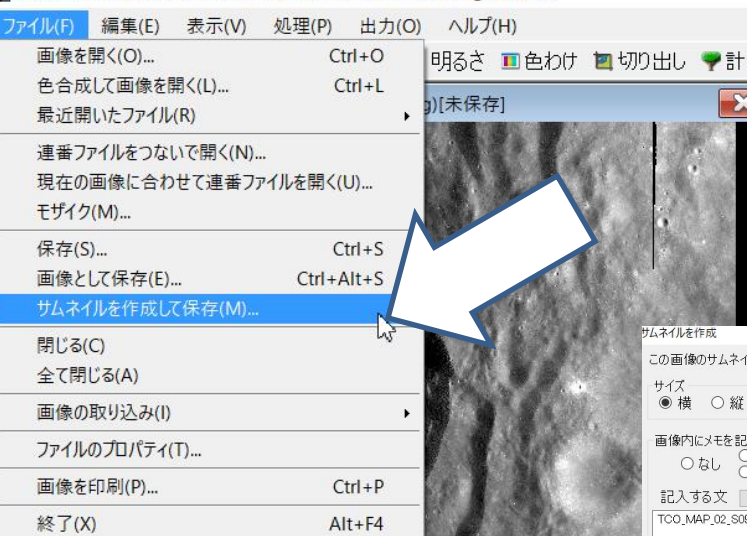
きより:13.701km
北緯33°20'27.50", 東経132°01'18.50"

ひまわり8データでも「距離、面積等の算出はこれまでのバージョンでも可能でした。」

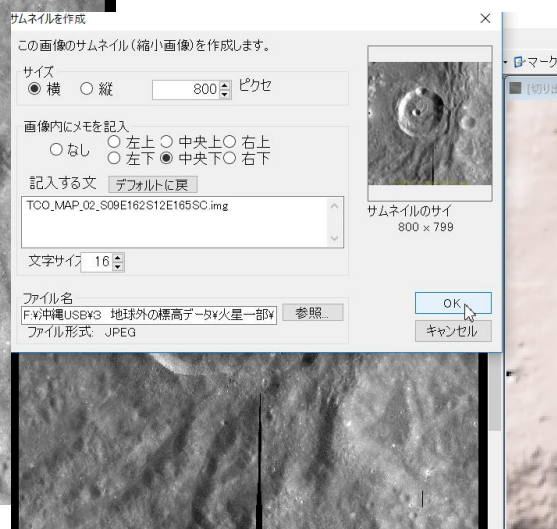
きより:1484.407km
南緯27°37'33.10", 東経134°35'20.94"

新機能 「サムネイルを作成して保存」

EISEI - 画像ファイル (TCO_MAP_02_S09E162S12E165SC.img)[未保存]



ファイル→「サムネイルを作成して保存」
ファイル名をつけ、サムネイルファイル付きで
保存できる



オリンポス山周辺
画像22.tif

項目の種類: TIF ファイル
評価: 評価なし
大きさ: 12288 x 12288
サイズ: 288 MB